

企業理念

地域を創造するトータルコア企業

概要

名称	飯塚信用金庫	貸出金残高	162,566百万円
所在地	福岡県飯塚市本町11番42号	会員数	15,889人
創立	大正11年12月22日	店舗数	20店舗
自己資本	33,425百万円	役員数	199名
預金残高	286,485百万円	営業地区	福岡県一円

(2024年9月30日現在)



9月仮決算のご報告

預金積金の状況

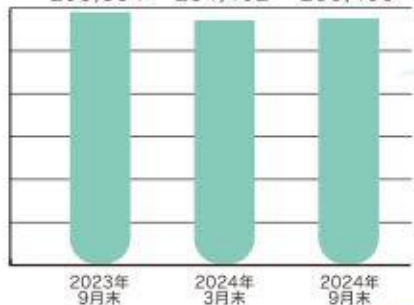
(2024年9月30日現在)

残高

2,864億円

(単位:百万円)

293,854 284,402 286,485



上半期で
20億円
増加



預金者別 残高構成比

(2024年9月30日現在)

※構成比は、小数点以下第2位を四捨五入しております。

業務純益

(単位:千円)

	2022年9月	2023年9月	2024年9月
業務純益	894,022	806,834	888,357
実質業務純益	890,851	806,834	887,217
コア業務純益	843,724	1,017,684	1,278,635
コア業務純益 (除く投資信託解約損益)	766,834	840,257	926,400

(注)

- 業務純益＝業務収益－(業務費用－金銭の信託運用見合費用)
金融機関の基本的な業務(本業)に係る利益を示します。
具体的には、資金運用収支・業務取引等収支・その他の業務収支の合計から、業務遂行に必要なとされる経費(除く臨時経費)を控除したものです。
- 実質業務純益＝業務純益＋一般貸倒引当金繰入額
実質業務純益は、業務純益から、一般貸倒引当金繰入額の影響を除いたものです。
- コア業務純益＝実質業務純益－国債等債券損益
国債等債券損益は、国債等債券売却益、国債等債券償還益、国債等債券売却損、国債等債券償還損、国債等債券償却を通算した損益です。

貸出金の状況

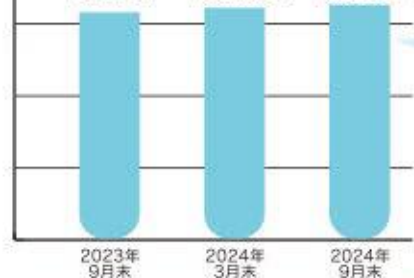
(2024年9月30日現在)

残高

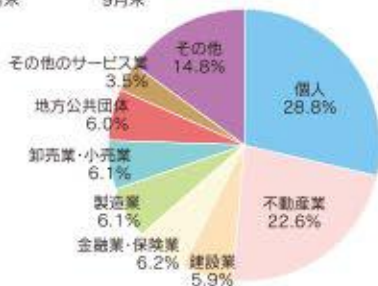
1,625億円

(単位:百万円)

157,255 160,256 162,566



上半期で
23億円
増加



貸出金業種別 残高構成比

(2024年9月30日現在)

貸出金業種別内訳表

(2024年9月30日現在)

(単位:百万円)

業種	2023年9月末残高	2024年3月末残高	2024年9月末残高
製造業	9,701	9,772	9,936
農業、林業	371	352	348
漁業	-	-	4
鉱業、採石業、砂利採取業	3	3	2
建設業	11,159	10,681	9,659
電気・ガス・熱供給・水道業	4,478	4,831	4,868
情報通信業	570	392	379
運輸業・郵便業	1,831	1,904	1,972
卸売業・小売業	10,645	9,995	9,856
金融業・保険業	10,076	10,030	10,043
不動産業	32,813	36,048	36,750
物品賃貸業	369	339	359
学術研究・専門・技術サービス業	921	976	1,052
宿泊業	1,337	1,284	2,994
飲食業	2,664	2,448	2,268
生活関連サービス業・娯楽業	1,862	1,859	4,921
教育・学習支援業	504	496	534
医療・福祉	3,798	3,938	4,238
その他のサービス業	8,267	8,646	5,752
地方公共団体	10,553	10,105	9,756
個人	45,323	46,147	46,864
合計	157,255	160,256	162,566

有価証券の時価情報

①満期保有目的の債券で時価のあるもの

(単位:百万円)

	2024年3月末		
	貸借対照表計上額	時価	差額
債券	-	-	-
その他	4,442	4,618	176
合計	4,442	4,618	176

	2024年9月末		
	貸借対照表計上額	時価	差額
債券	-	-	-
その他	4,142	4,261	118
合計	4,142	4,261	118

②その他有価証券で時価のあるもの

(単位:百万円)

	2024年3月末		
	貸借対照表計上額	取得原価	差額
株式	1,398	1,124	274
債券	62,854	66,868	△ 4,013
その他	35,645	36,008	△ 363
合計	99,898	104,001	△ 4,102

	2024年9月末		
	貸借対照表計上額	取得原価	差額
株式	1,370	1,246	124
債券	61,806	66,328	△ 4,522
その他	35,723	36,845	△ 1,122
合計	98,900	104,421	△ 5,520

③その他有価証券で時価のないもの

(単位:百万円)

	2024年3月末	
	貸借対照表計上額	
非上場株式等	113	

	2024年9月末	
	貸借対照表計上額	
非上場株式等	112	

収益の状況

(2024年9月30日現在)

業務純益

8億88百万円

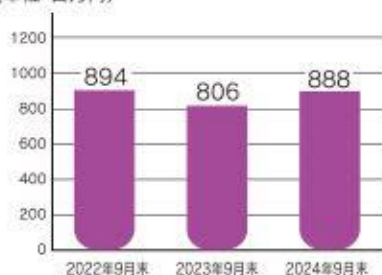
経常利益

7億22百万円

当期純利益

5億4百万円

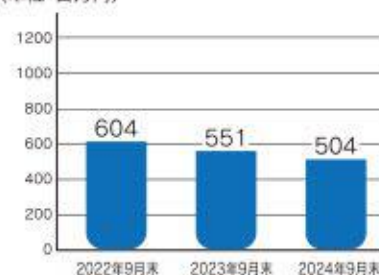
(単位:百万円)



(単位:百万円)



(単位:百万円)



用語説明

- 経常利益 業務純益に株式の売買損益や不良債権の処理に要した費用などの臨時損益を加減したもので、金融機関の経常的な営業活動の成果を示したものです。
- 当期純利益 経常利益に突発的な収益や費用(特別利益・特別損失)加減し、法人税等を控除したものです。

信用金庫法開示債権(リスク管理債権)及び金融再生法開示債権の保全・引当状況

不良債権比率は、3.72%で、期首より0.18% 減少しました。

当金庫は、充分な引当を実施しており、内部留保とあわせて不良債権に対する備えは万全です。

(単位:百万円)

区 分	2024年3月期	2024年9月期					
	開示残高	開示残高 (a)	保全額 (b)	担保・保証などによる回収見込額 (c)	貸倒引当金 (d)	保全率 (%) (b/a)	引当率 (%) d / (a - c)
破産再生債権及びこれらに準ずる債権	2,480	2,742	2,742	1,169	1,572	100.00	100.00
危険債権	3,792	3,317	2,951	2,566	384	88.96	51.20
要管理債権	-	-	-	-	-	-	-
三月以上延滞債権	-	-	-	-	-	-	-
貸出条件緩和債権	-	-	-	-	-	-	-
小 計 (A)	6,272	6,059	5,693	3,736	1,956	93.95	84.24
正常債権 (B)	154,388	156,831					
総与信残高 (A) + (B)	160,660	162,890					
不良債権比率 (A) / 総与信残高 × 100	3.90%	3.72%					

- (注) 1. 「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。
 2. 「危険債権」とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権で、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」に該当しない債権です。
 3. 「要管理債権」とは、信用金庫法上の「三月以上延滞債権」に該当する貸出金と「貸出条件緩和債権」に該当する貸出金の合計額です。
 4. 「三月以上延滞債権」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」及び「危険債権」に該当しない貸出金です。
 5. 「貸出条件緩和債権」とは、債務者の経営再建等を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」及び「三月以上延滞債権」に該当しない貸出金です。
 6. 「正常債権 (B)」とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がない債権であり、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」及び「要管理債権」以外の債権です。
 7. 「担保・保証等による回収見込額 (c)」は、自己査定に基づいて計算した担保の処分可能見込額及び保証による回収が可能と認められる額の合計額です。
 8. 「貸倒引当金 (d)」には、正常債権に対する一般貸倒引当金を除いて計上しております。
 9. 「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」及び「正常債権」が対象となる債権は、貸借対照表の「有価証券」中の社債(その元本の償還及び利息の支払の全部又は一部について保証しているものであって、当該社債の発行が有価証券の私募(金融商品取引法第2条第3項)によるものに限る。)、貸出金、外国為替、「その他資産」中の未収利息及び振込金並びに債務保証見込の各勘定に計上されるもの並びに注記されている有価証券の貸付けを行っている場合のその有価証券(使用貸借又は貸借借付契約によるものに限る。)です。

自己資本(経営の健全性がわかる指標)

自己資本比率は、経営の安定性を示す最も重要な指標といわれ、国内基準では、4%以上を保つよう義務づけられています。当金庫の2024年9月期の自己資本比率は、2024年3月期より0.22%程度減少し17.21%程度となりました。国内基準4%・国際基準8%を大幅に上回り、経営の健全性を維持しております。

(単位:百万円)

項目	2023年9月	2024年3月	2024年9月
自己資本額 (A)	32,183	32,922	33,425
リスク・アセット等 (B)	184,640	188,807	194,199
自己資本比率 (A) / (B)	17.43%程度	17.43%	17.21%程度
総所要自己資本額 (B) × 4%	7,385	7,552	7,767

*2014年3月期よりバーゼルⅢ(国内基準)を適用しています。

*リスク・アセットとは、リスクを有する資産(貸出金や有価証券など)を、リスクの大きさに応じて掛け目を乗じ、再評価した資産金額。

*総所要自己資本額とは、リスク・アセットの総額×4%(自己資本比率規制における国内基準)。

自己資本比率の推移

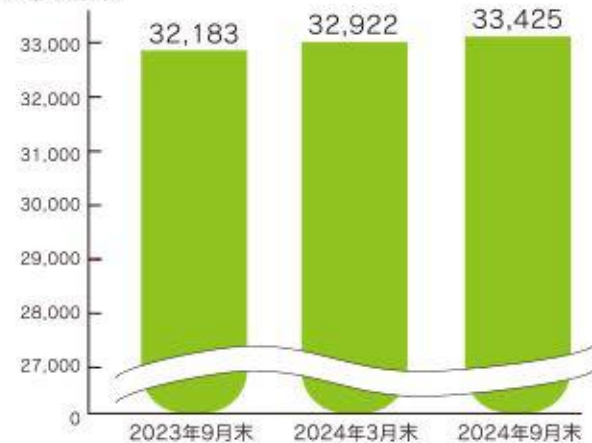
17.21%程度



自己資本額

334億円

(単位:百万円)



自己資本額(コア資本)

会員から受け入れた出資金と、内部留保(利益剰余金)、一般貸倒引当金等の合計であり、返済の必要のない資本です。

2014年3月期より新たなBIS規制(バーゼルⅢ)として盛り込まれました。従来は「基本的項目」「補完的項目」などに分類していましたが、最も安定度が高い資本を新たにコア資本として求められております。

自己資本額は、2024年3月期より5億3百万円増加しております。

いいしんは、飯塚市が進める

子ども体験型キャリア教育事業

に協賛しています。

飯塚市が2023年から取り組んでいる「いいしん子ども体験型キャリア教育事業」は、飯塚市立小中学校の児童生徒が社会の仕組みと経済の動きを正しく理解し、自らの意思で進路選択や将来設計をするための体験ができる学習プログラムです。公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本が提供する小学5年生を対象とした、モノやサービスを提供する側と受ける側の両面で体験する「スチューデント・シティ」と、中学1年生を対象とした、生活に必要なお金について大人の立場で生活設計をする「ファイナンス・パーク」を導入し、穂波庁舎3階においてリアルな実践的・体験的な学習活動を行っています。

飯塚信用金庫では、「ファイナンス・パーク」では、教材の提供を行い、「スチューデント・シティ」では、ブースを出展するとともに、企業ボランティアとして職員を派遣し、一般ボランティアの皆さまとともに円滑な運営をサポートさせていただいております。

